

# 京の博物館

目次

巻頭言……………	1	トピックス……………	6
おこしやす		京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」…	8
・日図デザイン博物館 (JDM) ……	2	美術館・博物館と私……………	11
・近藤悠三記念館……………	4	ティータイム……………	12

関西から

文化力  
POWER OF CULTURE

## 巻頭言

## 街ごとと美術館



国際法曹協会事務総長・弁護士 川村 明

「世界中を周っても、京都より美しい街はパリしかない」というのが私の持論です。ただのふるさと自慢じゃないかと笑う人もいます。私は40年以上東京に住んでいますが、本籍は生まれてこのかた頑として中京区から動かさない京都人ですから。

京都は、幸いにして政治都市ではなく、産業都市でもありません。わき目も振らずに美術都市政策に邁進できるのです。

「世界中を周っても」とは大法螺だと思われるかもしれませんが、私は国際法曹協会 ( I B A ) という弁護士会の世界的組織の役員を永年やっていて、世界中の都市を訪れます。今年から、その事務総長を勤めていますので、より頻繁に海外へ行くでしょう。楽しみは会議の合間に街や美術館を見ることなのです。

最近、京都市議会は全会一致で景観条例を制定しました。「京都旧市街」とでも言える地域を囲い込んでそこにある文化財と景観を一体として保存する勇氣ある決断です。この景観と美的資産の保護を、更に、新しい都市開発につなげていかなければなりません。旧市街の空間デザインや景観・建物の修復と維持に巨額の投資をすべきだと思います。そうすると、最早旧市街全体が一個の美術館になるではありませんか？そこでは、人々は神社仏閣から美術館へと流れ、旧市街はその美術館の美しい中庭という趣です。

京都の持つ美的、文化的価値が法律によって充分保護されていることは承知していますが、それでも京都に帰ってきてがっかりすることの多いことも否定できません。例えば、古くて美しい神社や仏閣の域内が賃貸しの駐車場になっていたり、山門の横手に飲料の自動販売機が置かれていたりするのはよく見るではありませんか？

近年、ニューヨークの近代美術館MOMAや、パリのルーブルとオルセー美術館など有名美術館が競って面目を一新し、周囲の街と景観の美を分け合い、「街の美術館化」とも言うべき都市開発に成功しているのを思い出します。それらの美術館の周囲には、古い景観を生かして建てられたカフェやレストラン、書店やギャラリーやブティックが立ち並んで、新しい美術館都市を形成しています。そのあたりを暫く散歩し、カフェでコーヒーを飲みながら物思いにふけてみると、誰の心にも自由で創造的な芸術家になったような気分が生まれます。考えてみると、パリの街角では、コーヒーだって、ラーメンだって、他国の都市よりかなり高いように思いますが、街の美しさに酔って誰も文句を言わないのです。

これはセンスの問題というより、経済か、経営の問題だと言う気がします。京都の古い神社や仏閣、美術品や景観は、今や世界先進都市垂涎的のです。これほどの美的資源は、現代社会の希少資産であり、その多くは再生産不可能の富の源泉だからです。ところが、その富をうまく回収できないで、自動販売機や駐車場の僅かな賃料で台なしにしていないでしょうか？

# CREATIVITY (創造)

創造は次代を活かす提案，主張である。

## 日図デザイン博物館 (JDM)

当館は、新しい文化の形を格調の高い豊かな人間生活を伸展するものにとらえ、創造性の開発、振興、進展、未来文化の創設、提案の役割を担うため、昭和52年4月登録博物館として出発しました。過去、現在、未来及び文化創造「未来100年史」の主旨に基づいた事業、収集を行っています。

### ● 設立母体

図案は私たちの日常生活の中で生きています。朝の目覚めの中で心地よい寝具、朝日に透け、風にゆれるカーテン、足元には柔らかな温かみのある絨毯などは図案をもとにした色や柄です。また、この世に生まれたとき優しい模様の布に包まれ、活発なあるいは落ち着いた色や模様の衣裳で身を装い成長します。このような色や模様も図案が元となってできたものです。図案は人間生活、人生を通して大切な役割を担い、成長過程で美的感性を培い、美しいという心を育てます。図案を制作する人々を図案家といいます。その図案家によって組織されたのが社団法人日本図案家協会です。日図デザイン博物館を設立しました。

(社)日本図案家協会は民法第34条の規定により昭和38年に文部科学省の認可をうけた日本で一番大きい図案家の団体です。図案の芸術性を高め、もって我が国の文化芸術の向上発展に寄与することを目的に事業を行い、博物館を設立運営し活動を行っています。協会



「日図デザイン博物館」

は社団法人となる前、日本染織図案家連盟として昭和21年に設立し活動をしていましたので60余年の歴史があります。

### ● 博物館がおこなっている展覧会

#### ① 「京都こども美術展」・「美の教育展」

「京都こども美術展」は昭和53年から、毎年夏に開催し、平成19年度で第30回展を迎えます。関係官公庁、団体、企業の御協力のもと、子どもたちの健やかな成長を願って、京都造形教育研究会、京都府、京都市の小学校、幼稚園、保育園の先生方とともに開催しています。昨年は約7,000点の出品を頂き、約1万人のご家族、関係者にご来館いただいています。そしてその優秀作品は「こどもの美意識百年史」を綴るためご寄贈して頂いています。また、会期中には先生方を対象とした図案家による技法の研修会を行っています。

冬には第19回目を迎えます「京都美の教育展」を京都造形教育研究会の先生方が中心になって企画し、子どもたちの「お話の絵」をクラス単位で展示し、それぞれの絵に、先生、子どもたちのコメントが添付されます。

教育現場のユニークな展覧会を当館は応援しています。



「京都こども美術展」

## ②「全国公募拓展—絵になる拓本展—」



「全国公募“拓展”—絵になる拓本—」

伝統的な拓本は対象を通して、その背景、時代、歴史、美、心、祈り、その深遠なるものを拓することにより作品となっていくものです。この展覧会は、古くからおこなわれていた伝統的な拓本の普及振興を図る事を目的として、日本拓本家協会の共催を得て開催しています。また、近年は、拓することによって表現されるアートすなわち「対象物」を限定することなく、自由に「対象物」を拓することで感性表現する「記録からアートへ」という新しい美術領域を拓き、同志社大学文学部美学芸術学科清瀬先生のゼミや、スペースデザインカレッジ、崇城大学芸術学部、九州美術ゼミナールの皆様とともに運営継続開催しています。平成19年度で第8回展を迎え、会期中は、毎回好評を得ている「拓」の講習会や教室を開きます。また、拓本を愛好する方々の会友組織も運営しています。

## ③「全国公募日図創作図案総合展」



「全国公募日図創作図案総合展」

この総合展は、図案を勉強している人たち、図案家になろうとしている人たちの登竜門として、また図案の専門家も出品する図案の公募展です。毎年全国から相当数の応募があり日図デザイン博物館で展示するほか東京都美術館でも展示しています。毎年継続して開催しており、平成19年度で第138回を迎えます。

その他当博物館で行われる協会主催の事業は日図デザイン祭（自らが作製したデザイン関連品の展示会・公募）、日図展（当協会会員によるプロフェッショナルな展覧会）日図資格認定制度に基づいた日本文様検定（一般対象で日本の伝統文様、文化に根ざした検定試験です。）等々です。常設展では吉祥図案を60点ほど展示しています。

なお、博物館は一般の方々の展示利用にも広く開放しています。

### ● 特徴的な館の資料



「大正・昭和初期 友禅図案」

**世界の国の花**…世界各国で愛されている花、ポピュラーな花を協会会員が描いた作品群です。世界約130カ国の花の作品を見て頂けます。

**県花・県鳥・県木**…日本全国の各都道府県の花・鳥・木がそれぞれ県別に描かれています。

**吉祥図案**…中国起源の吉祥（お祝いの絵）は長い歴史のなかで国風化され、日本固有の吉祥となりました。それを会員が新たな感覚で創作した300点ほどの作品。

その他、京都こども美術展寄贈作品、陶器原画、友禅図案、古代裂、モードショウウ衣裳等々があります。

日図デザイン博物館  
館長/林 大史

所在地/〒606-8343

京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

交通/地下鉄東西線「東山」下車、徒歩10分

市バス「京都会館・美術館前」下車

開館時間/ 9時～17時

休館日/年末年始（12月28日～1月4日）

土日（場合によっては開館）

料金/無料（展示によっては有料）

# 呉須三昧

## 近藤悠三の染付世界

### 近藤悠三記念館

白い磁器に酸化コバルトを原料とする呉須(ごす)で絵付けを施し、透明な釉薬をかけて高火度で焼きあげた焼物を「染付(そめつけ)」といいます。14世紀初頭中国景德鎮地方で発祥したこの技法は、ヨーロッパ、イスラム諸国、朝鮮半島など各地方に伝播し、近世の世界の陶磁器生産技術に多大な影響を与えました。日本へは16世紀末に九州の有田地方に伝わり、日本人の生活文化にも広く受け入れられるようになりました。ここ京都で本格的に染付磁器が生産されるようになったのは18世紀後半です。しかし、その多くは「古染付(こそめつけ)」や「祥瑞(しょうずい)」とよばれる中国製品の「写し」や、伝統的な技術やスタイルを中国に習ったものが中心であり、新しい独自の試みはほとんどなされてきませんでした。

その染付技法を伝統的な枠組から新しい芸術表現へと昇華させ、陶磁器染付の分野で重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けたのが、近藤悠三(1902-1985)です。



近藤悠三(1902~1985)

#### ● 近藤悠三の人と作品

##### ○陶芸の道へ

近藤悠三(本名・雄三)は、1902年(明治35)に清水寺門前(近藤悠三記念館のある場所)に生まれました。祖父である近藤正慎は勤王の志篤く、清水寺の

寺侍として住職月照上人に仕えましたが、月照と西郷隆盛が京から薩摩へ逃れるのを助け、その罪により幕府に捕らえられました。獄中での拷問にも口を開かず舌を噛み切って自ら命を絶った祖父正慎の壮烈な生き様は、近藤悠三の生涯に大きく影響したといわれています。

悠三は、官吏であった父の「職商人(しょくあきんど)になれ」というすすめで、小学校を出るとすぐ轆轤(ろくろ)技術を習得するため京都市陶磁器試験場附属伝習所轆轤科に入所します。そして、その卓越した轆轤技術が請われ同伝習所の助手をつとめていた間に、当時新進気鋭の作家であった河井寛次郎氏や浜田庄司氏と出会います。彼らから釉薬や焼成のしくみを学び、さらに、19歳からの三年間、浜田氏の紹介でイギリスより帰国した富本憲吉氏の助手となり修業を重ねました。「陶芸以外の勉強をうんとしなさい」という富本氏の言葉を胸に京都にもどった悠三は、関西美術院で洋画やデッサンを学び、同時に府立図書館で内外の美術書や文学書を読み漁り、陶芸の技術だけでなく、幅広い視野と豊富な芸術知識を蓄えていきました。明治維新後の近代化の波の中で、芸術作品としての陶芸のあり方が求められていた時代、近代的な感性を持つ陶芸家らとの交流は、悠三に大きな影響を与えることとなりました。

##### ○新しい“染付”の確立

23歳で清水に仕事場を設け、本格的な制作活動を開始します。はじめは染付だけでなく、掻き落とし、白磁、瑠璃釉、釉裏紅(ゆうりこう)、象嵌など、あらゆる手法に挑戦し、帝展や文展で入選を重ねますが、発表の場を日本伝統工芸展に移した昭和30年頃より、呉須による染付作品の制作が中心となっていきました。

伝統的な染付が、陶磁器に施される装飾技法であるのに対し、近藤悠三のそれは、写実の手法で自然の躍動をそのまま器面に描き表そうとするものです。柘榴(ざくろ)、薊(あざみ)、葡萄、竹の子、山、松竹梅などがモチーフとして多く取り上げられていますが、「山野

の果物や野菜の形が自然ながらに有している生命感、あのみずみずしさ、力強さ、やさしさ、そしてきびしさを、陶器もそれを求めてくるのだ」といっているように、大らかな筆勢で描かれた対象は、いきいきとした生命感、躍動感にあふれています。そしてその豪快な陶画を、豊かで無駄のない器形がしっかりと受け止め、卓抜な轆轤技術と染付の味わいが一体となって、独自の芸術世界を築きあげているのです。

50歳を過ぎてから取り組み始めた富士山の文様においても、悠三は類型化された従来の山水模様とまったく異なった表現を試みています。みずから「やっぱり、靈動、躍動する動きのある富士が好きですね」と語るように、富士にひそむ自然の精神、その生命力が表現されています。

### ○近藤芸術の広がり

後年には呉須に加え、赤絵や金彩も取り入れ、華麗な中にも重厚な趣きのある作品を残しています。中でも“染付金彩”は中国、朝鮮、ペルシャなどにもない、悠三の独創的な技法です。呉須で絵付をした後、絵模様以外の白い部分に赤を丹念に塗りこめて一度焼き、その後染付の青い部分と他の真赤な部分に分かれた器面全体に、刷毛筆で金泥をたっぷり重ねて塗りつぶします。そして再度焼くと、赤の部分にだけ金が焼き付き、呉須で描いた絵模様の部分は焼き付かない。それをはがして落とすと“染付金彩”ができるのです。



「富士染付赤地金彩壺」

昭和50年には、近藤芸術を愛する周囲の勧めで染付大皿の制作にも挑戦。九州有田において直径120センチメートルを超える世界最大級の染付大皿が制作されました。当記念館に常設されている「梅染付大皿」をはじめ、現在5枚の大皿が京都国立近代美術館などに収められています。

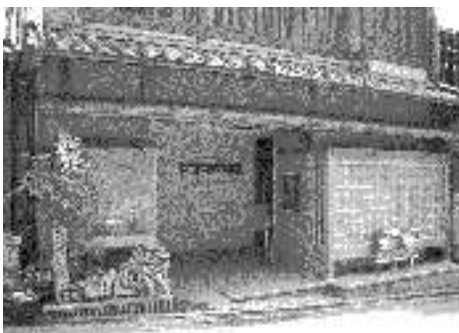


「梅染付大皿」

また、陶芸作家として自己の研鑽を積む一方、京都市立美術大学の助教授から教授として後進の指導を行い、さらに昭和40年から6年間は同大学の学長を務めました。

## ● 近藤悠三記念館

当記念館では、ご紹介しました「梅染付大皿」や染付金彩の作品をはじめ、初期から晩年までの作品約70点を展示しています。あわせて、轆轤場の再現や、大皿制作の様子を記録したビデオもあり、近藤悠三の作品とその制作背景をご覧ください。



近藤悠三記念館外観



館内風景

お訪ね下さった皆様が当記念館や作品を通して、近藤悠三の人となりや、その芸術世界に対するご理解を深めていただければ幸いです。

近藤悠三記念館  
学芸員 原 知子

所在地/〒605-0862  
京都市東山区清水1丁目287 (茶わん坂)  
交通/市バス「五条坂」下車、徒歩8分  
開館時間/ 10時～17時  
休館日/水曜日 (ただし、祝日、特別展は開館)  
料金/一般 500円,  
高・大学生 400円,  
小・中学生 300円

## 京都市博物館連続公開講座

### ○第3回 12月15日(金)

#### 河井寛次郎記念館

講演：「河井寛次郎記念館を訪問」  
河井寛次郎記念館 主事(陶工)  
河井 敏孝氏



記念館の2階の間において、河井寛次郎さんにもつわる貴重なエピソードを、参加者と車座になってお話しいただきました。寛次郎さんの作品に対する真摯な態度を教えていただいたうえで、登り窯のほか、多くの作品を見学したので、作品をより一層身近に感じることができ、充実した講座となりました。



### ○第4回 1月16日(火)

#### 一燈園資料館「香倉院」

講演：「西田天香さんの足跡」  
一燈園生活研究所所長  
村田 正喜氏

香倉院において、天香さんが一燈園を設立に至るまでの経緯や逸話をわかりやすくお話しいただきました。講演後は、館内の収蔵品の見学と広大な敷地にある園内の施設を案内いただき、厳しい修行の様子を垣間見ながらも厳かな雰囲気を経験することができました。

### ○第5回 2月8日(木)

#### KCIギャラリー (京都服飾文化研究財団)

講演：「西欧服飾史～  
18世紀から今日まで～」  
京都服飾文化研究財団  
アソシエート・キュレーター  
新居 理絵氏



18世紀から現代までの服飾文化について、絵画や写真、映画などの映像を見ながら、具体的に興味深く教えていただきました。講演後は、KCIギャラリーの衣装を見学し、その当時日本の文化が西欧に与えた影響の大きさや、優雅で華麗な衣装の素晴らしさを知ることができました。

## 加盟館のみなさんへ

### ・京都市内博物館施設連絡協議会 平成19年度総会

日時 平成19年6月21日(木) 午後1:30～午後4:00(受付1:00から)

会場 池坊短期大学 むろまちアートコート

### ・京博連ホームページをリニューアルしました！ ぜひアクセスしてください

ホームページアドレス

<http://www.edu.city.kyoto.jp/shogaigaku/kyohaku.html>

京博連加盟館一覧・活動の報告・京博連だよりの紹介を随時していきます。

## 他都市施設視察研修

去る3月15日、奈良県立万葉文化館（明日香村）と奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（橿原市）を総勢40名で訪問しました。

午前中は、天皇陛下も訪問された奈良県立万葉文化館において、稲村和子業務部長より館運営についてのお話と展示物についての説明を受け、井上さやか主任研究員の案内で、公開初日であった「大矢紀一日本の彩展一」や常設展を見学しました。

午後からは、樋口隆康京博連会長が所長を務められている奈良県立橿原考古学研究所において、松田真一附属博物館館長から考古学研究所と附属博物館についてのお話と説明いただいた後、特別に考古学研究所内での発掘物の復元作業を見学させていただきました。附属博物館では特別陳列「新羅瓦埴の美」や奈良県内から発掘された縄文時代以降の発掘物を見学しました。

両館ともに大変温かく迎えていただき、日頃各館において活躍されている参加者の皆様方の交流の場として和やかな雰囲気の中、充実した一日となりました。



発掘物の復元作業の見学  
(橿原考古学研究所)



縄文時代の発掘物の見学  
(橿原考古学研究所附属博物館)



万葉の時代を体験する  
歌の広場（万葉文化館）



万葉文化館にて

## 報告 第12回ミュージアムロード 一知ったはる？京都のことー

期 間 平成19年1月13日（土）～2月12日（月）  
 参加館 会場館24館 体験企画協力館2館  
 参加者数 入場者数54,656人 体験企画1,095人  
 スタンプラリー・プレゼント企画 応募者69人

多くの京博連加盟館の皆様のご協力で各館の特色を出した魅力ある企画が、参加者の興味を惹き、昨年度より多くの市民の方々に参加していただきました。



平安衣装着付体験



いけばな体験

### 参加者の声

○ 普段から足を運んでいた博物館だけでなく、様々な分野の博物館に実際に行く機会となり、幅広い学習ができました。

### 協力館の声

○ 今回のテーマは、分野・時代を限定したものではありませんでしたので、参加させていただきました。例年、入館者が少ない時期でしたが、体験企画にもたくさん参加者がありました。

## 新規加盟館の紹介

### ◆小倉百人一首殿堂 時雨殿

〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11 TEL: 882-1111

URL <http://www.shigureden.com>

### ◆京都国際マンガミュージアム

〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上る（元龍池小学校） TEL: 254-7414

URL <http://www.kyotomm.com>

# 京都市動物園

学芸員／坂本 英房

## わが館を紹介

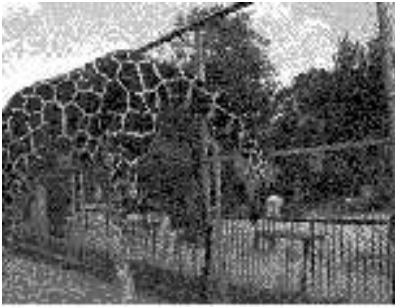
京都市動物園は明治36年（1903）4月1日、上野動物園に次いで、日本で2番目に開園しました。当時、上野動物園はまだ宮内省の所管でしたので、市民の寄付金と市費で建設された京都市動物園は、日本で初めての市立動物園で、その設立の経緯からは京都市民の進取の気風が感じられます。

当園は岡崎公園内にあって、周囲を平安神宮・南禅寺などの社寺や京都市美術館・京都会館などの文化施設に囲まれています。南側には琵琶湖疏水が流れ、水や緑が豊かで自然環境にも恵まれています。

また、園内にも桜をはじめ3000本を超える様々な樹々が茂り、訪れる野鳥も多く、四季の移り変わりを感じることができます。



開園当時の京都市動物園



スタッフの「創意と工夫」は園内随所に見られます。

## わが館ひと自慢

### 当園の全てのスタッフ

飼育員を始め全てのスタッフが自慢です。施設や資金の面では決して恵まれているとはいえない状況の中で、今の京都市動物園はスタッフの頑張りによって支えられています。

動物を心身ともに健康に飼育し、その魅力を伝えることが飼育員の仕事です。特に心の健康のためには、飼育している動物たちが心理的な幸福感が得られるような環境づくり（環境エンリッチメント）が大切です。

例えば、当園のキリンが与えた木の枝で体を掻いている様子を見て担当者が考案した「孫の手」ならぬ「孫の蹄（まごのてい）」は鉄筋を曲げただけの、ローコストな製品ですが、キリンは角の間や顔などを擦りつけうっとりとしています。他にも様々な工夫があり、こうした取り組みが評価されて、昨年はNPO法人市民ZOOネットワークが開催している「エンリッチメント大賞」の飼育担当者部門で、大賞を受賞しました。

## わが館もの自慢

### ゴリラの家族

「いきもの」自慢として、当園のゴリラたちを紹介します。

当園は日本で初めてゴリラの繁殖に成功し、さらに3世ゴリラの誕生という実績を持っていますが、現在、京都市が所有しているのは3世ゴリラの母親となったヒロミとその娘のゲンキのメス2頭です。野生のゴリラは1頭のオスと複数のメスの群れで暮らしています。そこで、札幌市円山動物園で一人暮らしをしていたオスのゴンを借り受け、群づくりを試みてきました。最初は争いもありましたが、2年かけてようやく3頭で暮らせるようになり、メスが発情すると、交尾をするようにもなりました。まだ繁殖にはいたっていませんが、ゴリラ同士のコミュニケーションが成立し、よりゴリラらしく平和に暮らしていることが一番の収穫です。

ゴリラの観察は、グラウンドで食事をしている午前中の早い時間帯がおすすめです。



ゴリラのゴンとヒロミ

- 所在地 / 〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町 岡崎公園内 TEL：771-0210
- 交通 / 地下鉄東西線「東山」または「蹴上」から徒歩10分
- 開館時間 / 9:00～17:00（3月～11月）、9:00～16:30（12月～2月）入園は閉園の30分前まで
- 料金 / 一般500円、中学生300円、小学生以下、土曜日の市内中学生は無料



# 伏見城跡出土遺物展示室

館長／三木 善則

## わが館を紹介

先ず御香宮神社の社務所の一室に設置されている展示室の開設の経緯を述べる。昭和40年代初頭、神社周辺の桃山地区に下水道工事が本格的に着手された。この工事進行中に、伏見城跡の石垣の一部や、金箔瓦を主とする瓦類がそこかしこ出土していた。そのまま放置しておけば、伏見城跡が跡形もなく記録も留めることなく消失する事を心配した、星野猷二・故高島勲・三木善則らは伏見城研究会を結成。京都市の文化財保護課に、伏見城跡を埋蔵文化財周知の遺跡に登録するよう働きかけた。当時市文化財保護課は、平安京跡のみを重要視し、いわゆる近世都市遺跡は考古学の対象に非ずとの認識があった。

私共は伏見の歴史の基本は秀吉、家康の伏見築城にあり、これを避けては伏見の歴史は語れない。そうした遺跡が学問的評価もなく破壊される事を懸念して、今まで収集していた金箔瓦を中心に、出土した瓦類を当局に持ち込み、前記の事を申し入れた。遂にそれが昭和44年に認められた。その時当局に持ち込んだ瓦類と、その後発掘調査を実施して出土した品々を、昭和57年社務所の一部を改装した時、応接間に展示ケースを設置、参拝者等に気軽に見学していただいている。



神社周辺の下水道工事の時に出土した伏見城の古瓦



御香宮神社の表門は伏見城大手門の遺構

## わが館ひと自慢

伏見城研究会代表幹事  
星野 猷二

伏見城研究会代表幹事、星野猷二氏、氏は古代瓦の研究では第一人者。氏が月刊文化財の『近世都市遺跡の特集号』に伏見城跡を取り上げられて寄稿された。これを機に近世都市遺跡が注目され、考古学の対象になり、『伏見城跡豊後橋北詰遺跡』の発掘調査が実施された。氏は永年の研究成果を数年前より『器瓦想録、其の一、其の二、其の三』を今春まで出版されている。これらの研究所は伏見城を研究する者にとっては重要な書籍であろう。

## わが館もの自慢

伏見銀座跡より出土した  
罎 塙 (るつぽ)

星野猷二、故高島勲、三木善則が保存にあたっている永年にわたり工事現場に遺棄されていた瓦類を中心にした、各大家の家紋入りの鎧瓦、伏見城特有の飾瓦類。

また、伏見銀座跡から出土した『罎塙 (ルツポ)』、禅寺跡からの排水管等々。

また太閤桐と呼称される『五・三桐』『五・七桐』の中心部分の桐の花の様々な特徴を持った残片、伏見城が天下人の城であった事を証する瓦類が多く展示されている。



伏見銀座跡から出土した『罎塙 (ルツポ)』

- 所在地 / 〒612-8039 京都市伏見区御香宮門前町174 御香宮神社内 TEL : 611-0559
- 交通 / 市バス「御香宮前」下車, 近鉄京都線「桃山御陵前」, 京阪電車「伏見桃山」
- 開館時間 / 9時～16時
- 料金 / 無料

# 財団法人 益富地学会館

学芸員／永富 愛

## わが館を紹介

当会館は、京都御所の西にある国内有数の石の博物館です。昭和48年にアマチュア鉱物研究者・益富寿之助博士が、地学研究を志す全ての人の手助けとなるようにと、その前身である「日本地学会館」を創設されました。その後、平成3年に財団法人化され、名称も「益富地学会館」に変更されました。現在、土・日・祝日に3階の展示室を一般公開しています。

展示室には、世界中の（特に日本の）鉱物・岩石・化石標本を所狭しと展示しています。「これが石なの？」と思う石や、恐竜の糞の化石、きれいな宝石など、あらゆる“石”を見て触っていただけます。一般公開日には、指導員が相談・説明を行っています。また、個人コレクションを見せる場として、「アマチュアコレクター標本展示コーナー」を設け、3ヶ月ごとに展示を行っています。

当館では、より多くの方に石のふしぎ、楽しさを広めるため、鉱物採集会や楽しい地学教室など、毎月様々な行事を行っています。また、アマチュア研究者のための機関紙「地学研究」を年4回発行しています。



館内風景



益富寿之助先生（1901～1993）

## わが館ひと自慢

### 益富 寿之助

益富寿之助先生（1901～1993）は、京都薬学校（現在の京都薬大）を卒業後、漢方薬局を経営しながら、少年時代より関心の深かった地質学・鉱物学の研究をされました。アマチュア地学研究者として、数々の業績をあげ、数多くの賞を受賞されました。より多くの方に地学の楽しさを広めたいと益富地学会館を設立し、初代理事長に就任されました。石を愛し、人望の厚い先生の周りには、常に人が集まり、多くの研究者や石好きを輩出されました。滋賀県大津市田上山で発見された新鉱物「益富雲母」には、先生のお名前がついています。

## わが館もの自慢

### 花崗岩ペグマタイト晶洞

玄関先のショーウィンドウに展示してある、岐阜県中津川市蛭川田原産・花崗岩ペグマタイト晶洞です。ペグマタイトとは、花崗岩などの岩石の鉱物粒が巨大になったもので、晶洞とは、岩石ができる時に生じる空洞のことです。この空洞には、水晶や長石、アクアマリンなど様々な鉱物が結晶します。よく「水晶はどうやってできるのか」という質問をされます。詳しい説明は省きますが（ぜひ来館時にご質問下さい）、この標本は、その水晶（煙水晶）や長石がどのようにできるかがよくわかります。外国からきたお客さんも、素晴らしいと絶賛される標本です。



- 所在地 / 〒602-8012 京都市上京区出水通烏丸西入中出水町394 TEL: 441-3280
- 交通 / 市バス「烏丸下長者町」下車徒歩2分、地下鉄烏丸線「丸太町」徒歩10分
- 開館時間 / 土・日・祝の10時～16時
- 料金 / 一般200円、小学生以下無料

## 一つの器から…色々

春と秋開館される泉屋博古館。世界的に著名な中国古銅器や、殷周時代に祭礼の器として使用された彝器、漢唐の鏡鑑等が展示されており、そこで解説ボランティアをさせて頂いています。廣川守先生の講義を虹の会二十名が受講出来る機会にも恵まれました。

館では、螭文甗を見て、酒倉の蒸し器や甗を思い浮かべ、麟鳳文洗の吉祥文で酒名「鳳麟」を、三角雲文卮でビールのジョッキを、四神十二支鏡で八卦文を、伯牙弾琴八花鏡で琴の名人伯牙を、そこから祇園祭の伯牙山を思い浮かべます。また双鶴八花鏡には、月桂樹を挟んで不老長寿の薬をひいている兎が描かれており、満月の中で兎が餅をついているのを子どもの頃から思っていた事を思い出したり、月桂樹の葉で料理に使うローリエや伏見の酒を連想しながら常設展を楽しんでいます。



銘文からは書道、落款印を楽しみ、文様から服飾品、室内飾、図案に応用して、それぞれの紀元前の展示品のすばらしさに感動しつつ、オリジナルで七宝焼のペンダントを作ったり…。次々と楽しみを思い浮かべさせてもらっている館です。

京都市博物館ボランティア「虹の会」第1期生  
石井 小雪



〔わ！きれい〕これが万華鏡をのぞいた来館者の第一声です。

大人にも子供にも心にゆとりを与える癒しの美術館、それが京都万華鏡ミュージアムです。

万華鏡の不思議な美しさは鏡が生み出すマジックであり、見ているその瞬間しか現れない映像が無限に広がり二度と同じ形が現れません。

## 楽しく面白いやすらぎの美術館

また、ミラーの数と角度を変えることにより、同じ対象物が異なって見えます。

万華鏡はスコットランドで生まれ江戸時代に長崎出島を通じて日本に伝来したと伝えられ、はじめは灯台の光をより遠くへ届かせる方法を研究している中で発見されたと言われております。

当ミュージアムの特徴は全て手に取って見ることができ、内外の作家による奇抜な作品が多数展示されております。

今や万華鏡は玩具からアートへと変身しました。

私も当館で癒されながら手作り教室と万華鏡の紹介を楽しんでいます。

京都市博物館ボランティア「虹の会」第5期生  
小林 保彦

## 孤高の画仙人と呼ばれた小松均

小松均画伯は25歳の時大原の里の水の清さに心打られてこの里に移り住んだと言われています。

大原の自然をたずねて年2～3回訪れます。その一つにバス停戸寺から京都トレイルを江文峠へ歩を進めると峠の手前に小松均美術館があります。生前の住居、アトリエの建物です。大原西南から眺める東方向の風景は季節を通じ気持ちを和ませてくれ、小松均の大原風景の絵そのものです。

小松均の絵は大原、最上川、富士山を中心に人、花、岩等自然の逞しい生命力、純朴さ、土の香り、優しさ、清らかさ、おあらかさを高い精神性をもって写実を重んじ豪快かつ繊細に大自然の魂を描ききっています。生き方は厳しい自給自足の中で独り自然に立向い黙々と絵を描き続けたと言われ、大自然の魂を描く孤高の画仙人と呼ばれてい



ます。日々の雑踏を離れ、大原の四季を体感しゆったりと小松均の絵を鑑賞していると心に感動を呼び起こしてくれます。

京都市博物館ボランティア「虹の会」第4期生  
大澤 敏郎



## 秒速5センチメートルの桜

京都国立近代美術館 学芸課長

京博連 幹事 河本 信治

いつものように、桜の季節になりました。そのせいではありませんが、新海誠の新作アニメ『秒速5センチメートル』を見てきました(5cm/秒は、桜の花びらの落下速度を示しています)。新海誠は個人制作した『ほしのこえ』(2002)や劇場アニメ『雲のむこう、約束の場所』(2004)などの作品で、一部の層から圧倒的支持を得ている映像作家です。いわゆる「セカイ系」(主人公と“彼女”との極小の人間関係や葛藤が、社会的な関係性の構築を経ることなく、直接的に世界＝セカイに影響を与えてしまう物語(社会的関係性が欠落した物語)、と説明できるとおもいます)のカリスマの一人であり、ある場面や瞬間の「空気」を描くことだけにおいては、きわめて優れた表現力を持っています。

私は『機動戦士ガンダム』以降の日本のアニメの多くは、

「不在」あるいは既に失われている「懐かしい風景」を語るファンタジーという枠組みの中に自覚的に止まり続けているのだと理解しています。



東松照明「桜」長野 高遠町 1980

ですから、そこで語られている「不在」は何かということにとっても興味があります。ガンダムは失われてしまった家族関係の物語でした。アムロにとってホワイトベースは擬似家庭であり、物語は家庭の外(社会)での擬似的家族関係の再構築として展開したと思います。『新世紀エヴァンゲリオン』では社会的関係構築の困難さ(コミュニケーションの不可能性)が、不器用に自分の居場所を探す主人公の怯えた姿と「ハリネズミの矛盾」という象徴的な言葉で

表現されていました。『ほしのこえ』では社会的営みは完全に欠落し、“彼女”との関係は携帯電話の「会話」を通じてのみ維持されていました。『秒速5センチメートル』には、丘の上で幼馴染みの恋人に携帯メール(テキスト・メール)を打っている印象的なシーンがあります。映画の終わりに、これは発信されたことのないメールであることがサラリ



東松照明「桜」京都 御所 1984

と明かされます。新海誠のアニメは仮想世界の緻密さやストーリーの巧拙で批評すべき作品ではなく、鑑賞者が抱く瞬間的な表象＝イメージ(「空気

」のようなもの)と表象の連鎖こそが核心であり、その意味で写真の静止画の鑑賞に共通するような気がします(新海誠が語る空気は、いま若者たちが共有するコミュニケーションへの圧倒的な絶望感だと思います)。

写真家・東松照明の作品に、カラーで淡々と桜を撮り続けたシリーズがあります。この作品は多くの場合、「日本人は桜に特別な思い入れがあり、東松の桜の写真には鑑賞者が様々な表象と解釈が自由に重ね得るのだ」と語られます。しかし均一でメッセージ性の少ない東松のカラー写真を見続けると、写真は何も語っていないこと、撮影された桜の画像でしかないことに気づきます。私たちの鑑賞行為は、見て何かを表象しその意味を求める自動的な作用と、「視覚対象と対峙しているだけ」という事実との緊張関係の中にあり、この緊張関係に気づくことこそが鑑賞の可能性を発見することなのだという気がします。

### 京博連(京都市内博物館施設連絡協議会)とは

博物館施設(以下「博物館」)が、市民の皆さまの「生涯学習の場」としてより良く発展するため、博物館と博物館、博物館と市民が交流、協力することのできるネットワークづくりを目指し、平成4年に京都市教育委員会と市内の博物館や関係団体が連携し発足したものです。【加盟館178館(正会員157館、賛助会員21団体(H19.5.16現在))】

発行 平成19年5月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局(京都市教育委員会生涯学習部内)

所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町御池上 TEL075-222-3184 FAX075-213-4650

ホームページ <http://www.edu.city.kyoto.jp/shogaigaku/kyohaku.html>

「京博連だより」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。